

311ゼミ

「未来へ繋ぐ命の守り方」

～あの日の学校避難体験を伝え次ぐ～





目次

- § 目的
- § 取り組むこと／手段
- § 現地視察
- § 現地視察からわかったこと
- § 大川小学校との比較
- § まとめ

目的



1. 学校避難体験の検証・追体験による実践的な学校防災の論考



2. 学校避難、学校防災の知見の獲得と活用



3. 震災の伝承



取り組むこと/手段



○整理

- ・ 学校避難を体験したゼミ生の記憶を文字に起こす。
- ・ ネットや新聞などの資料から情報を収集しまとめる。

○確認と調査

- ・ 実際に現地を視察し、避難ルートを確認、追体験をする。
- ・ 当時の校長先生から避難の詳細について聞き取り調査する。
- ・ アンケート調査を行う。

○分析とまとめ

- ・ 調査や視察から、避難の成否の分かれ目について考察する。
- ・ 分析の結果をまとめ、発信する。

現地視察

○日程 2019年8月21日

○視察地域

南三陸町立名足小学校（宮城県本吉郡南三陸町）

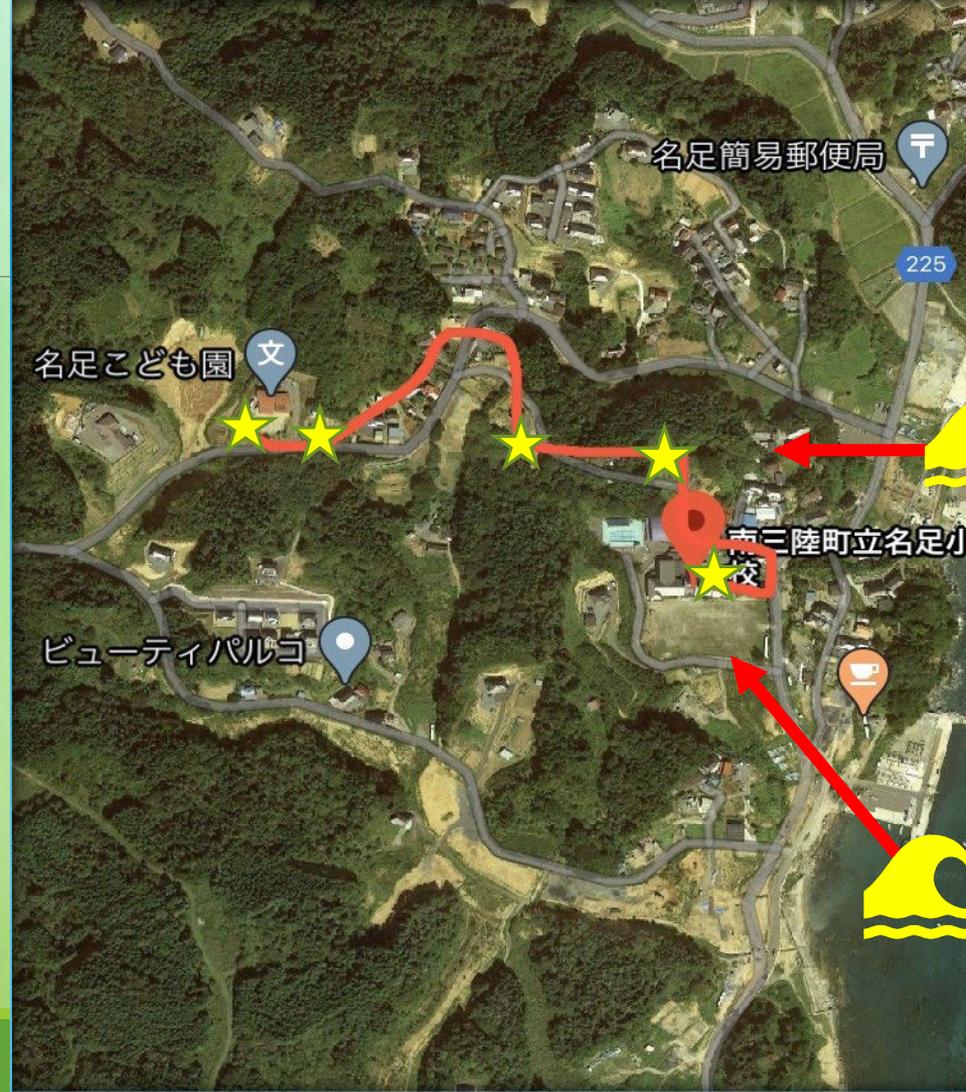
石巻市立旧門脇小学校跡（石巻市門脇地区）

○概要

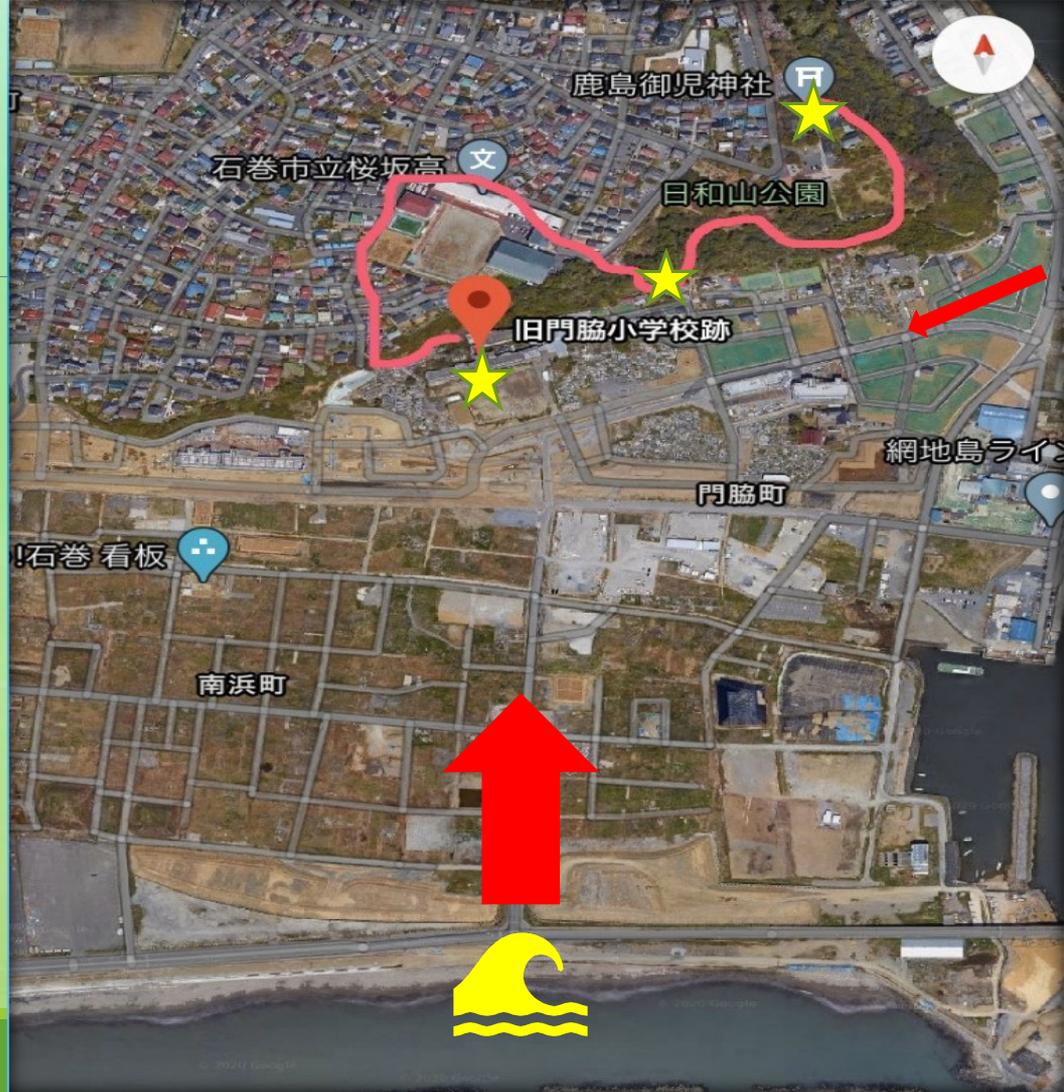
当時の学校職員であった先生及び児童であったゼミ生（長谷部・三浦）の感想や体験談を踏まえながら避難路を辿る。また、当時どのような対策を行ったのか、そこから得られた学びや経験について調査活動を行う。



名足小学校 での現地視察



門脇小学校 での現地視察



現地視察からわかったこと

1. 災害が起こる前の備え

- 日常生活と防災教育のかかわり
- 学校教職員の防災意識と教員間の連携
- 学校周囲の特徴の把握
- 地域との連携と保護者との連携

2. その日の協力と臨機応変な対応

- 学校教職員の防災意識と教員間の連携
- 地域との連携と保護者との連携
- 児童と避難する際の注意点
- 情報収集

アンケート調査について

○目的

・震災当時の先生方の記憶や証言を情報として集め、学校避難により子供たちの命を守ることができた経緯を正確に把握し、追体験のための事前準備や検証の際に役立てること。

○結果から...

- ・教員でもあり、一人の人間でもある。その中で子供たちを守る。
- ・異なる考えを持っていながら、教員間の連携が取れていた。
- ・マニュアルにとらわれすぎず、汎用性のある知識を教育することも重要。

大川小学校との比較

子供たちの命を守るために・・・

- 「時間・情報・手段」に加え、事前の準備と臨機応変な判断と行動が重要。
- 教師は、その場に居合わせた大人ではなく、あくまで子供の命を預かる学校の職員として責任を持った行動が求められる。
- 一人の教員が責任を負うのではなく、職員全員が関わり、意見しあいながら学校ごとに実態に応じて備え、一人ひとりがこれらを意識することが求められる。

まとめ

○学校避難において、日常からの災害の備えと子どもを第一に考えたその場での迅速な判断が重要であるということが分かった。

○現地視察の検証から、**名足小学校では当日の臨機応変な対応と協力、門脇小学校では災害以前の備え**が学校避難の成果として挙げられた。

○どちらか一方があればよいというわけではなく、**事前の備えや意識づけがあつてこそ、臨機応変な対応ができる。**

○**震災を知らない子どもたち**を学校避難とどう向き合わせるか、**震災を経験していない教員**とどのように学校避難を作り上げていくかが今後の課題である。



ご清聴ありがとうございました。